

【宇部版】中小企業景況動向調査 調査レポート

2022年 1～3月期の景況 / 2022年 4～6月期の見通し

宇部市内における中小企業の業況は、先行きが不透明である。

今回調査のポイント

宇部商工会議所情報サービス部会では市内中小企業(下記DATA参照)の景況動向等を把握するため、2022年1～3月期の実績と2022年4～6月期の予測を取りまとめた。本調査は、3ヶ月ごとに年4回実施する予定である。

全産業のDI値は、前期より2.5%の回復となった。業種別では、建設業は▲35.7%から▲22.2%へ、卸売業は▲22.2%から▲9.5%へと大幅に回復、製造業は▲10.0%から▲15.0%へ、小売業は▲33.3%から▲38.9%へ、サービス業は▲8.0%から▲14.8%へと悪化した。来期の新規設備投資については、今期よりも5.2%増加する見込みである。経営上の問題点については、多くの業種で「原材料価格の上昇」や「仕入単価の上昇」が1位となった。なお、全産業で「需要の停滞」に関する問題が上位を占めている。

DI(ディフュージョン・インデックス)とは？

DI値とは、企業の業況感や設備などの変化の方向性を示す指標。経済部門ごとの調査回答「上昇」「不変」「下降」をもとに、景況変動に係る複数の指数を合成して算出する。

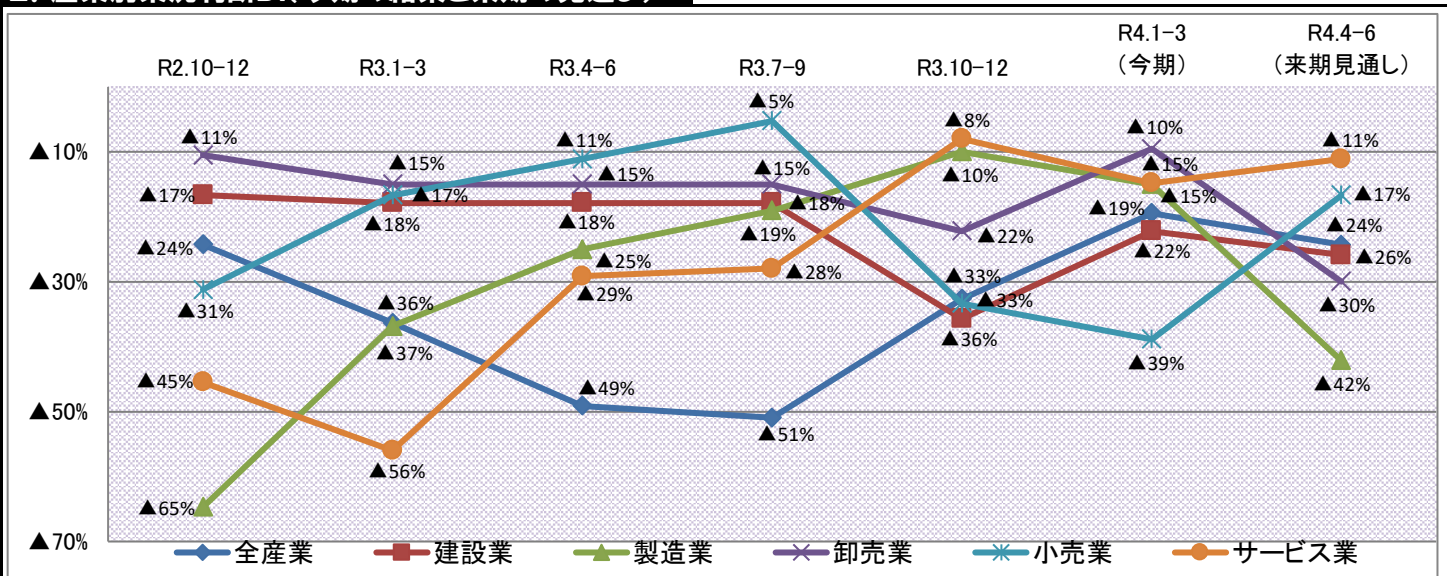
DATA

- 調査期間: 令和4年3月14日～3月25日
- 調査対象: 宇部市内の中小企業135社
- 有効回答企業数: 115社(85.2%)

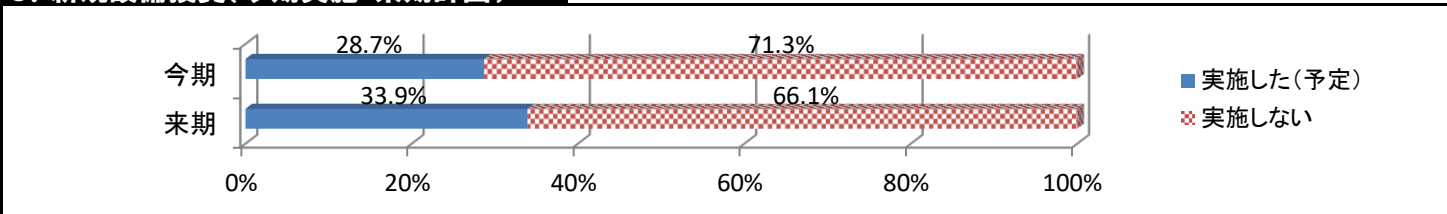
1. 業況DI値(今期の状況)

	業況	前环比	売上高	前环比	資金繰り	前环比	経常利益	前环比	従業員数	前环比
全産業	▲19.5%	2.5%	▲18.4%	3.4%	▲14.0%	▲7.6%	▲24.6%	▲8.0%	▲8.0%	4.0%
建設業	▲22.2%	13.5%	▲48.1%	▲5.3%	▲11.1%	▲0.4%	▲48.1%	▲12.4%	0.0%	14.3%
製造業	▲15.0%	▲5.0%	▲5.0%	▲25.0%	▲30.0%	▲9%	▲30.0%	▲19.5%	▲10.0%	▲15.0%
卸売業	▲9.5%	12.7%	▲23.8%	4.0%	0.0%	0.0%	▲4.8%	▲10.3%	14.3%	31.0%
小売業	▲38.9%	▲5.6%	▲26.3%	21.1%	▲10.5%	▲10.5%	▲42.1%	▲15.8%	▲17.6%	▲5.9%
サービス業	▲14.8%	▲6.8%	11.1%	19.1%	▲18.5%	▲18.5%	0.0%	8.0%	▲25.9%	▲5.9%

2. 産業別業況判断DI(今期の結果と来期の見通し)



3. 新規設備投資(今期実施・来期計画)



4. 経営上の問題点

	建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
1位	官公需要の停滞	17.9%	原材料価格の上昇	30.0%	仕入単価の上昇	23.3%	仕入単価の上昇	20.0%	従業員の確保難	23.2%
2位	材料価格の上昇	16.7%	生産設備の不足・老朽化	13.3%	従業員の確保難	13.3%	需要の停滞	20.0%	需要の停滞	13.0%
3位	民間需要の停滞	15.4%	従業員の確保難	13.3%	需要の停滞	13.3%	販売単価の低下・上昇難	10.9%	利用者ニーズの変化への対応	11.6%
4位	従業員の確保難	14.1%	需要の停滞	13.3%	販売単価の低下・上昇難	10.0%	消費者ニーズの変化への対応	9.1%	人件費の増加	8.7%